

# 絶えざる技術革新への挑戦

## INTEC TECHNICAL JOURNAL の創刊にあたって



代表取締役社長

中尾 孝雄

昭和39年（1964年）、「富山計算センター」として呱呱の声をあげた当社は昭和45年には「インテック」に改称いたしました。社名INTECはInformation Technologiesからとったものであります。以来、われわれは一貫して情報・通信技術の発展と共に歩み、その応用技術の開発に取り組み、ITのインテック、ネットワークのインテックと呼ばれて今日に至っております。

さて、わが社は2004年1月に創立満40年を迎えますが、これを記念して「INTEC TECHNICAL JOURNAL」を発刊いたしました。顧みますと1974年に研究紀要第1号を出し、その後、INTEC Technical Reportと改めて通算58号を発刊してまいりましたが、この間に発表された論文は500編に達しております。研究紀要第1号の発刊からちょうど30年になりますが、これら研究論文集はわが国情報技術の発展史であり、技術立社を標榜するインテックの知的資本蓄積の証しでもあります。

さて、わが国経済は長い不況に喘ぎ、社会は混迷の色を深くしております。経済再生の担い手として強く期待されたIT関連産業もいわゆるITバブルの崩壊といわれるとおり、いま不振のうちにあります。しかしながらそのような状況のなかでもIT技術は確実に進歩、発展を続けているのです。

インテックは、第12次3カ年計画（2001年～2004年）のサブタイトルを「社会が変わる、私たちが変わる、そしてインテックが変わる」としてありますが、社員一人ひとりが成長することによってインテックを大きく変えていくことに全社一丸となって取り組んでおります。変化が力であり、変化がインテックの企業体質そのものになることを目指しています。そして、その根幹をなすものはInformation Technologiesであります。

IT革命進展の中で、激しく変化する社会の中で、われわれはお客さまへの変わらぬ誠意をもって、変わりつづけていきたいと思っております。

INTEC TECHNICAL JOURNALは、そのようなインテックの道しるべとなっていくものと確信しております。新たなる創刊にあたり、わが社がお客さまの多様なニーズにお応えし、日本経済再生に微力ながら貢献できることを、そして若い社員の「技術」への限りない挑戦を心から期待するものであります。